

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和7年10月号

県産日本なしトップセールスを初開催！

千葉県農林水産部販売輸出戦略課
ブランディング推進室 副主査 飯生 智久

令和7年8月2日、東京都中央卸売市場大田市場において、千葉県では初の取組となる県産日本なしの本格出荷に合わせたトップセールス「千葉なし出陣式」を開催し、市場卸、量販店バイヤー等市場関係者に向けて県産日本なしの本格出荷開始をPRしました。

千葉県は日本なしの栽培面積、生産量、産出額が全国1位（令和5年度農林水産統計）です。県では、令和5年度から、県内外の消費者に向けて県産農林水産物の魅力を発信するため、日本なしを「千葉県の顔」となる品目として位置づけ、集中的なプロモーションに取り組んでいるところです。

この度、東京青果（株）協力のもと、千葉県熊谷知事をはじめ、千葉県果樹園芸組合連合会谷嶋会長代理、JA全農ちば、（公社）千葉県園芸協会、主要4JA（JA長生、JA市原市、JA西印旛、JAいちかわ）の生産者代表が出席し、「千葉なし出陣式」と題したトップセールスを実施しました。出陣式では、市場卸や場内仲卸業者をはじめ、青果小売商、量販店バイヤー、場内仲卸業者等売買参加者に多数お集まりいただき、県産日本なしの本格出荷開始をPRすることができました。

市場関係者に向けては、熊谷知事は「千葉県は「梨の三冠王」である。また、遡れば、江戸時代に川上善六という人物が全国を旅する中で梨の栽培技術を得て、市川市八幡が産地になり、江戸で高級品として評判になった。千葉県内各地域にいる生産者が丹精込めてつくった「味が自慢の千葉の梨」を多くの方々に食べていただきたい。」

と挨拶し、また、谷嶋会長代理は、「今年もいい梨ができた。幸水、豊水、新高、あきづきといろいろあるが、皆様の好きな梨を選んで食べてほしい。これからも千葉の梨、我々生産者は一生懸命作っていく。皆様においしいと言っていたけりような梨を作りたいと思う。」と挨拶がありました。

挨拶後には、県産日本なし「幸水」の試食、約120食が熊谷知事と谷嶋会長代理によって配布されました。試食配布を前に長い列をつくった売買参加者が次々に受け取り、試食した買参人からは、「千葉の梨は人気があり、プライスリーダーでもある。もっと出荷してほしい。」との声が聞かれました。



挨拶前の集合写真



試食配布風景

今後、県では、オリジナル品種「秋満月」のPRにも注力し、果物専門店等でのフェア展開、「秋満月」と「中秋の名月」を掛け合わせたイベントを10月6日（月）に予定しており、更なる県産日本なしの認知度向上、消費拡大に向けたPRを展開していきます。



JAグループ千葉「食の安全・安心」産地づくりの取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部
営農園芸部 営農支援課 根本 和俊

消費者が食品に求める基準は年々高まり、「安全・安心」が欠かせない条件となっています。JAグループ千葉では、生産者と消費者を結ぶ存在として多面的な活動を展開しています。ここではJAグループ千葉として実施している取組について紹介します。

生産段階での徹底した管理

JAグループ千葉は、生産者に農薬や肥料の詳細な生産履歴の使用記録の記帳を義務づけています。これにより、万が一問題が起きた際にも原因を迅速に特定し、消費者への影響を最小限に抑える体制を整えています。

「もっと安心農産物」の展開

JAグループ千葉では、独自のブランドとして「もっと安心農産物」を展開しています。これは県の慣行基準を下回る基準を設け、化学農薬や化学肥料の使用をできるだけ減らした、自然環境にもやさしい安全・安心な農産物の生産・販売を目指しております。

対象となる農産物には統一のマークを表示し、消費者が一目で安心できるよう工夫されています。さらに定期的な検査や監査を通じて基準を満たしているかを確認し、ブランド価値を維持しています。



DX化は「道具」、支えるのは「人」

生産履歴簿のデジタル化(DX化)も進めております。タブレットやスマートフォンから記録できる仕組みの導入が進んでおります。これにより、栽培記録の迅速な集計やトレーサビリティ情報の公開が容易になり、消費者にさらなる安全性を提供できます。

ただし、JAグループ千葉は「DXはあくまでツール」とであると強調しています。食の安全を守る土台は、生産者の正しい知識と行動です。農薬の適正使用や

衛生的な管理など人の努力こそが信頼の源であり、DXはその取組を補完する役割を担います。将来的にはDX化をさらに進め、消費者へ「見える安心」を届けることを目指しています。

流通・検査段階での安全確保

収穫された農産物は、残留農薬検査や米のDNA鑑定なども実施しており、ある一定の担保が取れた農作物を出荷しています。さらに、トレーサビリティシステムを導入することで、生産地や生産者名、栽培方法などを消費者が確認できるようになっています。

こうした仕組みにより、販売現場に並ぶ農産物は安心の見える化が可能となり、消費者が安心して購入できる環境が整えられています。

消費者との交流と信頼構築

JAグループ千葉は、学校や地域団体を対象とした食育活動を行い、食の安全や農業への理解を深める取組にも注力しています。

さらに直売所や地産地消フェアでは、生産者と消費者が直接対話する場を設け、食の安全・安心を目に見える形で実感してもらう取組も実施しています。

将来への展望

JAグループ千葉は、気候変動や食の多様化に対応するため、人の知識と技術を土台にDXなどの新技術を積極的に取り入れています。DX化によって食の安全の透明性を高めつつ、最終的には人の判断と責任が食の安全を支えるという考え方を軸に、千葉の農業を未来へとつないでいきます。さらに、消費者に寄り添った情報発信や交流を重ね、誰もが安心して口にできる農産物を届け続けることを目指しています。



日本種苗協会千葉県支部と連携した 「直売所プロジェクト」の新たな展開

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 主幹 熱田 圭佑

千葉県園芸協会では、日本種苗協会千葉県支部（以下、「日種協千葉県支部」）と連携し、「直売所プロジェクト」を実施しています。このたび、新たな取組の一つとして、『道の駅くりもと「紅小町の郷」』の協力のもと、とうもろこしの新品種の紹介と収穫の楽しさをPRするイベントを開催しました。

1. はじめに

「直売所プロジェクト」は、日種協千葉県支部に所属する種苗会社がお勧めする野菜の品種を直売所にて販売し、千葉の野菜の価値と直売所の魅力を高める取り組みとして令和6年度から実施しています。プロジェクトでは、日種協千葉県支部の協力のもと、活動の趣旨に賛同いただいた県内7カ所の直売所に種子を無償で提供して試作・販売し、生産者と消費者の双方からアンケートを取り、その結果を種苗会社へフィードバックしています。

2. イベントについて

(1) 概要

消費者に直接PRして生の声を聴くため、農場を持つ『道の駅くりもと「紅小町の郷」』と連携し、食べ比べによる食味コンテストと収穫体験のイベントを7月19日（土）に開催しました。収穫後の品質低下が早く、直売所の優位性をより活かせる品目として「とうもろこし」を選定し、日種協千葉県支部会員がお勧めする3品種に慣行品種を加えた下記4品種を用いました。

- ・雪印種苗（株） 「ピュアホワイト SP」
- ・タキイ種苗（株） 「ホイップコーン」
- ・ヴィルモランみかど（株） 「サニーショコラ ライラ」
- ・（株）サカタのタネ 「ゴールドラッシュ 88」（慣行）



採りたての甘さにびっくり！

(2) 食味コンテスト

道の駅にある「ふれあい農園」内に設置した特設テントにて、当日収穫したとうもろこしを試食用に提供し、簡単なアンケートとともに、1人1票で最もおいしいと思った品種に投票していただきました。10歳未満から70代以上の幅広い世代の計63名に投票いただいた結果、2位と1票差の1位に輝いたのは、雪印種苗（株）の「ピュアホワイト SP」でした。試食した方からは、「少しずつ味が違って面白かった」「今まで食べた中で一番おいしかった」等の感想をいただきました。



道の駅のInstagramにて
結果発表

(3) 収穫体験

試食会場のすぐ隣にあるほ場で収穫体験を実施しました。当日は親子+祖父母の3世代で来場したお客様も多く、猛暑の中ではありますが、皆さん収穫を楽しみ、会場は笑顔であふれていました。

3. 今後に向けて

各種苗会社が育種した品種の中には、優れた特長がありながらも、様々な理由で普及していない品種があります。そのような中、直接消費者に商品の魅力を伝えることができる直売所は貴重な存在です。園芸協会では、消費者の皆様には様々な品種・品目を知っていただき、千葉の野菜と直売所の魅力をますます高められるよう、今後とも日種協千葉県支部と連携し取組んでいきます。



落花生のコンテナ乾燥法の開発 ～農業用コンテナと除湿機を使った安定的な乾燥法～

千葉県農林総合研究センター
落花生研究室 室長 津金 胤昭

近年、秋でも高温多湿な日が増えているため、畑に野積み（ぼっち積み）した落花生の莢の品質が低下してしまうことがあります。そこで、農業用コンテナと除湿機を利用して、安価かつ安定的に落花生を乾燥させる方法を開発しましたので紹介します。

1. はじめに

落花生は、収穫後に株を畑に並べて地干しし、その後、野積みにして乾燥させます。しかし、近年は秋季の降水量が増加し、気温も上昇傾向にあるため、乾燥中にカビが発生し、品質が低下することがあります。また、ほ場で乾燥させるために鳥獣害が発生したり、ほ場の占有期間が長くなります。一方で莢実を温風乾燥機で乾かす方法もありますが、乾燥機は高価であり、年間を通じて設置場所が必要になります。そこで、収穫した落花生を安価かつ安定的に乾燥させる簡易な方法を開発しました。

2. 落花生のコンテナ乾燥法について

この方法で使用するコンテナ乾燥装置は、パレット上に農業用コンテナを24個（6個×4段）積み上げ、その上部に換気扇を設置したものです（写真）。パレットと換気扇以外の部分はビニールで覆い、下段から上段に向けて空気が流れるようにします。掘り上げた落花生は数日間地干しし、脱莢した後にコンテナに入れます。床面が地面のビニールハウスに設置する場合、夜間にハウス内の湿度が上昇するため、ブルーシートで簡易テントを作り、その中にコンテナ乾燥装置と除湿機を設置します。



（写真）除湿機を用いたコンテナ乾燥装置の設置状況

注）稼働時は簡易テントを閉じる。

コンテナ乾燥装置1基で約5アール分（野積み5基分相当）の莢実（約190kg）を乾燥できます。野積みの場合、降雨時は乾燥が進まず、十分な乾燥には2週間以上かかりますが、この乾燥法では1週間程度で乾燥が可能です。また、子実のショ糖含有率は野積みと同等であり、食味も変わりません。

莢実の乾燥程度を把握するには、あらかじめ重量を測定した莢実を網袋に入れてコンテナの最上段（排気口に近く乾燥に時間がかかる部分）に設置し、日々の重量の変化を確認すると良いです。始めは莢実がどんどん軽くなりますが、やがて重量の変化が無くなれば、十分に乾燥している状態です。

この乾燥法を使用する場合は、十分に地干しして表面が乾いた莢実を使用する必要があります。コンテナ内で莢が密着するため、湿った莢実があるとカビが発生しやすいからです。また、ハウス内に設置する際に日照によって装置内が高温になりすぎる場合は、遮光や換気といった対策をとる必要があります。

3. おわりに

今回御紹介した方法を使うと、高温多湿の条件下でも落花生を乾燥できます。設置コストは比較的安く、ビニールハウスのような簡易な施設内でも利用できます。地干し後に脱莢して乾燥させるため、ほ場の使用期間が短く、莢の傷みや鳥獣害を避けることができます。また、野積み乾燥と同程度の品質の子実が得られます。是非お試しください。

この方法を詳しく知りたい方はこちら（千葉県HP）
（PDF：564.1KB）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/r6n10.pdf>



「稼げる農業」の実現に向けた新たな取組 ～アグリトップランナー育成事業～

千葉県農林水産部担い手支援課 経営体育成班

千葉県農業の未来を担う農業経営体の育成や成長を支援するため、令和6年度に「アグリトップランナー育成事業」を開始しました。

1. はじめに

千葉県では、農業者の減少や高齢化が進む一方で、農産物販売金額が3,000万円を超える農業経営体の数が増加しています(2020年農林業センサス)。こうした状況を踏まえ、将来の千葉県農業をけん引する「アグリトップランナー」を育成し、またその経営発展を支援するため、令和6年度に「アグリトップランナー育成事業」をスタートしました。

この事業では、農業者の所得向上に向けた経営コンサルティングや、農業経営を支える人材の育成を支援しています。以下に事業の概要を御紹介します。

2. 事業メニュー

(1) 所得向上に向けた経営コンサルティング事業

この事業では、経営発展に意欲的な農業経営体を対象に、プッシュ型のコンサルティングを行っています。令和6年度には12経営体を支援しました。

＜対象とした経営体＞

- ・販売金額3,000万円以上を目指す経営体
- ・概ね30～50歳の若手農業者が従事する経営体
- ・経営継承や雇用導入などの転換期にある経営体

＜コンサルティングの内容＞

- ・経営の強み・弱みの整理
- ・経営課題の明確化
- ・農業所得の向上に向けた提案・助言

事前カウンセリング

(経営の概要や特徴、目標、課題などをヒアリングし、経営課題を事前に分析した上で、適切な専門家を選定)



コンサルティング

(中小企業診断士などの専門家が対象者を訪問し、経営の現状を分析した上で、課題を見える化し、具体的な実現可能な解決策を提案)



経営改善レポートの提供



レポートに基づく継続支援

図 経営コンサルティングの流れ

支援後のアンケートでは、90%以上の経営体が「経営の目標や方向性を明確にできた」「経営課題を把握し、新たな気づきを得た」と回答しました。また、「専門家の助言で課題解決への意識が高まった」「規模拡大や雇用に挑戦する意欲が芽生えた」などの声も寄せられています。

(2) 農業経営を支える人材育成事業

アグリトップランナーの更なる経営発展を図るには、経営主自身の経営管理能力の向上に加え、経営主を支える「右腕」となる人材の育成が重要です。本事業では、従業員や後継者を対象に、経営の多角化や規模拡大、経営管理の高度化に必要な専門知識や技能の習得を目的とし、通常業務と切り離して訓練を実施する際に、その訓練にかかる経費などの助成を行っています。

【事業主体】 認定農業者

【補助対象】 訓練にかかる経費、訓練期間中の賃金など

【補助率】 1/2以内(一部定額)

【補助上限】 50万円

【採択要件】 農産物の売上高5,000万円以上など

令和6年度には、7経営体がこの事業を活用しました。具体的には、農作業安全に関する職場研修や大型特殊自動車免許取得に向けた教習の受講、さらに経営の多角化などを進める際に必要な人材確保や情報発信などの取組を支援しました。

本事業は公募制です。募集の詳細は千葉県ホームページを御覧ください。



3. 結びに

この事業は、千葉県農業の未来を担う農業経営者や人材を支援する取組です。対象となった経営体が経営改善や規模拡大に向けた新たな一歩を踏み出し、また専門家の助言や訓練を通じて、経営者自身のスキルアップや人材育成も進んでいます。

千葉県では今後も、地域農業の持続的な発展を目指し、次世代を担う農業経営体の成長を支援していきます。

催物案内



千葉県植木まつり（第50回千葉県植木共進会）

千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

全国有数の植木産地である本県植木の生産技術の向上と需要拡大を図るため、千葉県植木まつり（第50回千葉県植木共進会）が開催されます。

植木まつりでは技術を競った県産植木の展示・即売を行います。国内外に誇る本県の卓越した高い技術で生産された植木を是非御覧ください。

【期 日】 令和7年10月25日（土）～26日（日）

【会 場】 道の駅 みのりの郷東金
（東金市田間 1300-3）

【内容（予定）】

- ・植木まつり出品物の展示、即売会
- ・樹木に関する相談コーナー
- ・アンケート回答者への苗木プレゼント

【問合せ】

県庁農林水産部生産振興課
園芸振興室 TEL: 043-223-2871



前回（第49回）
農林水産大臣賞受賞の天目松



前回（第49回）展示物

催物案内



千葉県立農業大学校の学園祭 第46回「社稷祭」を開催

千葉県立農業大学校

令和7年11月8日（土）9時～14時、9日（日）9時～13時 「社稷祭」を開催します。

昨年に続き、2日間開催いたします。本校農場にて生産した農畜産物の即売をはじめ、芋掘り体験（有料）、農業機械の展示、昆虫展、模擬店での軽食販売などを実施します。

御来場いただいた皆様に喜んでもらえるよう、学生は丹精込めて作物、野菜、果樹、花きなどの栽培及び加工品の生産に励んでいます。

また、学生が取り組んでいる卒業論文や課題研究についてパネル展示をしています。栽培技術から農大で開発した新技術の研究まで、多岐にわたる研究テーマについて御覧いただけます。

是非とも、お誘いあわせの上、御来場いただければ幸いです。

【開催場所】 千葉県立農業大学校
〒283-0001 東金市家之子 1059

【問合せ】 TEL: 0475-52-5121

【千葉農大ホームページ】

<https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



※詳しくはこちら



※写真は過去の様子です。